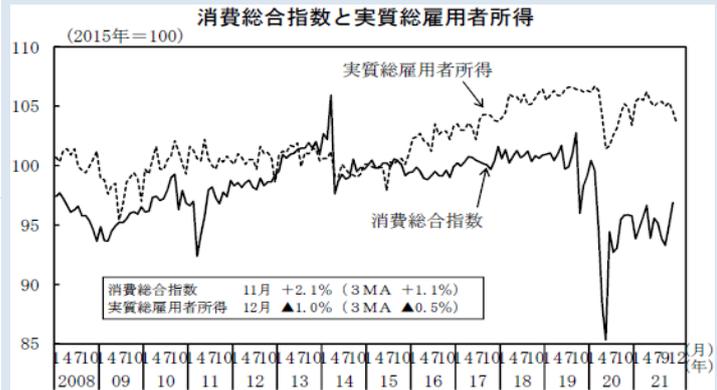


月例経済報告（2022年2月）

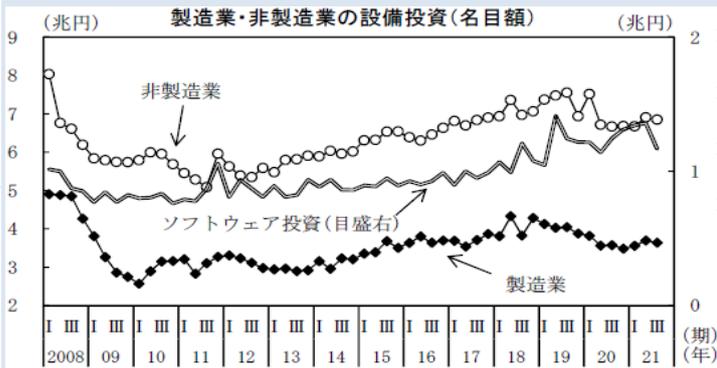
● 月例経済報告（2/17）

基調判断	(2月) 景気は、持ち直しの動きが続いているものの、新型コロナウイルス感染症による厳しい状況が残る中で、一部に弱さがみられる。 感染対策に万全を期し、経済社会活動を継続していく中で、各種政策の効果や海外経済の改善もあって、景気が持ち直していくことが期待される。ただし、感染拡大による影響や供給面での制約、原材料価格の動向による下振れリスクに十分注意する必要がある。また、金融資本市場の変動等の影響を注視する必要がある。
	(1月) 景気は、新型コロナウイルス感染症の影響による厳しい状況が徐々に緩和される中で、このところ持ち直しの動きがみられる。 感染対策に万全を期し、経済社会活動を継続していく中で、各種政策の効果や海外経済の改善もあって、景気が持ち直していくことが期待される。ただし、感染症による影響や供給面での制約、原材料価格の動向による下振れリスクに十分注意する必要がある。また、金融資本市場の変動等の影響を注視する必要がある。

個人消費	(2月) このところ持ち直しに足踏みがみられる。
	(1月) このところ持ち直している。



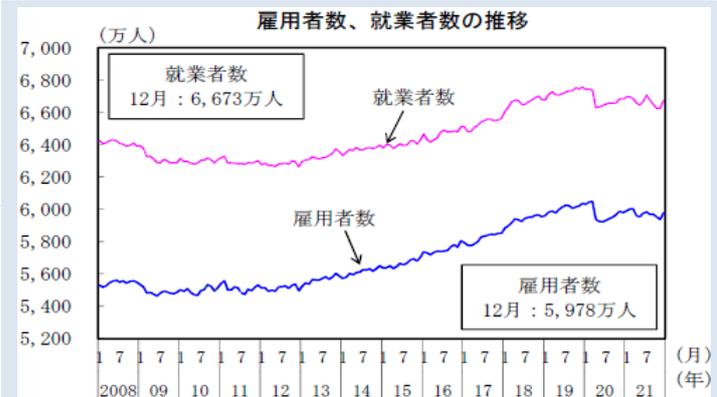
設備投資	(2月) 持ち直しの動きがみられる。
	(1月) 持ち直しに足踏みがみられる。



住宅建設	(2月) このところ弱含んでいる。
	(1月) おおむね横ばいとなっている。



雇用情勢	(2月) 感染症の影響が残る中で、引き続き弱い動きとなっているものの、求人等に持ち直しの動きもみられる。
	(1月) 感染症の影響が残る中で、引き続き弱い動きとなっているものの、求人等に持ち直しの動きもみられる。



<p>生産</p>	<p>(2月) 持ち直しの動きがみられる。</p>	<p>鉱工業生産・出荷・在庫・在庫率の推移 (2015年=100) (2015年=100) 予測調査</p>												
	<p>(1月) 持ち直しの動きがみられる。</p>													
<p>輸出</p>	<p>(2月) おおむね横ばいとなっている。</p>	<p>地域別輸出入数量指数 ①輸出 (2015年=100)</p> <table border="1"> <tr> <td>全体</td> <td>12月 ▲2.1%</td> <td>3MA +2.4%</td> </tr> <tr> <td>アジア</td> <td>12月 ▲3.3%</td> <td>3MA ▲0.8%</td> </tr> <tr> <td>アメリカ</td> <td>12月 +2.0%</td> <td>3MA +5.0%</td> </tr> <tr> <td>EU</td> <td>12月 ▲4.6%</td> <td>3MA +1.0%</td> </tr> </table>	全体	12月 ▲2.1%	3MA +2.4%	アジア	12月 ▲3.3%	3MA ▲0.8%	アメリカ	12月 +2.0%	3MA +5.0%	EU	12月 ▲4.6%	3MA +1.0%
全体	12月 ▲2.1%	3MA +2.4%												
アジア	12月 ▲3.3%	3MA ▲0.8%												
アメリカ	12月 +2.0%	3MA +5.0%												
EU	12月 ▲4.6%	3MA +1.0%												
	<p>(1月) おおむね横ばいとなっている。</p>													
<p>国内企業物価</p>	<p>(2月) このところ<u>緩やかに上昇</u>している。</p>	<p>企業物価の推移 (2015年=100) (2015年=100)</p> <p>(備考) 1. 日本銀行「企業物価指数」により作成。国内企業物価は夏季電力料金調整後。 2. 国内企業物価(参考指数、消費税抜き)は、2019年10月以降を掲載。</p>												
	<p>(1月) このところ上昇テンポが鈍化している。</p>													
<p>消費者物価</p>	<p>(2月) 底堅さがみられる。</p>	<p>消費者物価の推移 (2020年=100)</p>												
	<p>(1月) 底堅さがみられる。</p>													
<p>海外経済</p>	<p>(2月) 世界の景気は、新型コロナウイルス感染症による厳しい状況が緩和される中で、持ち直している。 先行きについては、先行きについては、持ち直しが続くことが期待される。ただし、感染の動向や供給面での制約、原材料価格の動向による下振れリスクに留意する必要がある。また、金融資本市場の変動等の影響を注視する必要がある。</p> <p>(1月) 世界の景気は、新型コロナウイルス感染症による厳しい状況が緩和される中で、持ち直している。 先行きについては、先行きについては、持ち直しが続くことが期待される。ただし、感染の動向や供給面での制約、原材料価格の動向による下振れリスクに留意する必要がある。また、金融資本市場の変動等の影響を注視する必要がある。</p>													